

事業名称	縄文王国山梨・縄文の魅力拡散プロジェクト		
実行委員会	縄文王国山梨実行委員会		
中核館	山梨県立考古博物館		
	住所	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923	
	TEL	055-266-3881	FAX 055-266-3882
	ホームページ	https://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/	
構成団体	山梨県立博物館・北杜市考古資料館・韮崎市民俗資料館、南アルプス市ふるさと文化伝承館・釈迦堂遺跡博物館・ふじさんミュージアム・山梨県立考古博物館協会の会		
事業開始時点の課題分析	<p>山梨県の縄文文化は、世界に誇る高い芸術性・精神性を宿した土器や土偶を数多く生み出し、今日までに 5 件、6,664 点が国の重要文化財に指定されており、研究者や愛好家などから極めて高い評価を受けている。特に、近年では平成 25 年の酒呑場遺跡出土品の新規指定、平成 26 年の梅之木遺跡の国史跡指定など、史跡や重文の指定が相次いでおり、確実に活用可能な縄文の地域資源を増やしている現状がある。平成 30 年は、これらを含む長野・山梨の遺跡や出土品が日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」に認定され、さらに東京国立博物館の特別展「縄文－1 万年の美の鼓動」やパリにおけるジャポニスム 2018「縄文」展の開催など、「縄文ブーム」の中で文化財の公開や活用など社会的なニーズが一段と高まっている。そのため、これらの効果的かつ適切な活用は、地域を盛り上げることや、これらを使った新たな地域戦略をつくるためにも必要不可欠なものである。</p> <p>当実行委員会では、これまで「縄文の魅力発見プロジェクト」、「世界に誇る縄文文化再発見事業」などの活動を実施してきた。各館の専門性を持った学芸員が連携協力した講座やイベントを実施し、一定の成果をあげてきたが、一般市民レベルにおける「縄文」の理解については、未だ浸透が十分ではない。今後も引き続き事業を展開していくことにより、縄文の魅力を拡散していく必要がある。</p>		
事業目的	<p>本事業の目的は 3 つをあげることができる。まず、①これまで縄文に接する機会の少なかった人たちへ縄文の魅力を広くアピールを行い、新たな縄文ファンを掘り起こすこと。次に、②単純な講座を行うのではなく、双方向性を重視した対話型の企画を通じて、参加者の「知りたいこと」についてより深める機会とする。その上で各館のリピーターとなっている縄文ファンの理解をさらに深めること。そして、③これらを通じて誰もが地元の文化財に触れ、その魅力を共有し、地域づくりに役立てられるような形になるよう、史跡・重要文化財などを含めた文化財を効果的に情報発信や活用を行っていく。</p>		
事業概要	<p>本事業は、次の事業によって構成され、構成館の相互連携によって実現を図る。</p> <p>○Jomon FES 2018－山梨縄文まつり－</p> <p>目的①に沿って、だれでも参加可能なお祭りを開催する。平成 28・29 年度に引き続き、甲府駅北口広場という、山梨県の中心駅となる甲府駅利用者が必然的に通る場所を貸し切り、能動的な形でも参加可能にした上で、博物館活動の域を超えない範囲で縄文文化に関心を寄せるアーティストなどとのコラボレーションを行い、縄文の持つ敷居の高さを緩和する。これらを通じて、これまで縄文文化について関心の薄かった人達へ魅力をアピールし、新たな縄文ファンの獲得を目指す。</p> <p>○縄文問答</p> <p>目的②に沿って実施する双方向性を重視した参加型の講座で、縄文ファンの疑問や知りたいことなどをさらに深めていくことで、地域博物館などの持つ魅力的な資料へのアプローチの第一歩とする。</p>		

<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館 ■ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携 <input type="checkbox"/>イ ユニークベニューの促進 <input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館 ■エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信 (2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動 <input type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成 <input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発 ■ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施 <input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業 (3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館 <input type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動 <input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>・「Jomon FES 2018ー山梨縄文まつりー」は一昨年度、昨年度に引き続き、山梨の優れた縄文文化を広く発信する目的で開催した。一昨年の来場者数(5,000名)を超えることはできなかったが、好天のもとステージでのライブ演奏、トークショーやワークショップなどを実施し、昨年度の2倍以上の来場者があった(来場者数3,505名)。次年度への課題も見られたが、3回目の開催ということもあり、定着しつつあるイベントであることを実感した。会場設営や進行など、ノウハウも蓄積されてきており、来場者には縄文の魅力のアピールすることができた。</p> <p>・「縄文問答」は、少人数制(20~30名程度)の講座として同日に2回実施した。最新の調査研究成果をもとに、博物館で開催中の展示会に合わせて、実際に出土品を見ながら、専門家と参加者による対話形式での「縄文トーク」を楽しみながら、縄文時代への理解をさらに深める機会となった(参加人数は合計71名)。</p>

【事業実績】

構成7館との連携により、縄文の魅力拡散事業として、以下の2つの事業を実施した。

【1】縄文ファンの理解をさらに深める講座の開催

・縄文問答

10月20日(午前・午後計2回) 山梨県立考古博物館
「水煙文土器の世界」

【2】縄文の魅力拡散と新たな縄文ファンを掘り起こすためのイベントの開催

・Jomon FES 2018ー山梨縄文まつりー

11月11日 甲府駅北口よっちゃんばれ広場

(1)参加者数

・縄文問答 71人(2回合計)

・Jomon FES 2018ー山梨縄文まつりー 3,505人

(2)マスコミでの報道結果

・山梨日日新聞 11月20日掲載(Jomon FES 2018)

(3)成果及び今後の課題

今年度は、一昨年度、昨年度に引き続き「Jomon FES」のように、より多くの人に参加してもらえるようなイベントを開催した一方で、「縄文問答」は各回20~30名程度の少人数制の講座とし、出土品を見ながら縄文時代をより身近に感じてもらえるようなトークイベントを開催した。

「Jomon FES」は、3回目の開催ということもあり、定着しつつあ



るイベントであることを実感した。会場設営や進行など、ノウハウも蓄積されてきており、来場者には縄文の魅力をアピールすることができた。

「縄文問答」は、対話形式を重視し、山梨を代表する縄文土器について理解を深める機会となった。

「Jomon FES」は次年度以降も継続して実施していくことで、さらなる定着を目指していきたい。一方では、日本遺産の各事業とのバランスや担当職員の負担が今後の課題である。